

りんごをむだにしない

群馬県太田市立宝泉小学校 五年 松島 潤奈

わたしが小さいころ、保育園でりんご園に行った。そこで食べたりんごはみつがたつぷり入ってとても甘く、おいしかったのを覚えている。そのりんご園にはたくさんのりんごが地面に落ちていた。

この落ちたりんごはどうなるのだろうと、ぎ問に思い調べてみたら、国内のりんご農家のほとんどは、落ちたりんごをすててしまうそうさ。とてももったいないと思う。だが、海外のりんご農家では、すてられてしまったりんごのしんやしぼりかすを、「アップルレザー」という合成皮革に変えているそうさ。そのため家畜が減り、二さん化石もおさえられるという。すばらしい取り組みだなと思った。さらにその取り組みは、国内にも広がっていて、長野県飯綱町のりんご農家では、「国産りんごレザー」が開発されているそうさ。この取り組みが、もっと多くのりんご農家に広まったらいいなと思う。

副読本を読んで、りんごは一つ一つほぼ手作業で作っているので、とても大変だと思った。

このように、おいしいりんごを作るためには、とても手間がかかっていることがわかる。だからこそ、おいしいりんごをむだなく使いきることが大切なんじゃないかと思う。

わたしはまず、自分にできることから始めようと思った。一つ目は、責任を持つて食べることに、二つ目は、ありがたみを持って食べることを心がけようと思う。このことは、りんごだけじゃなく、ほかの食べ物でも言えることだと思う。みんなが少しのことを心がけたら、今かかえている問題も、少し軽くなるのかなと思う。でも、完全に解決するためには、まだまだやらなくてはいけないことがあると思う。